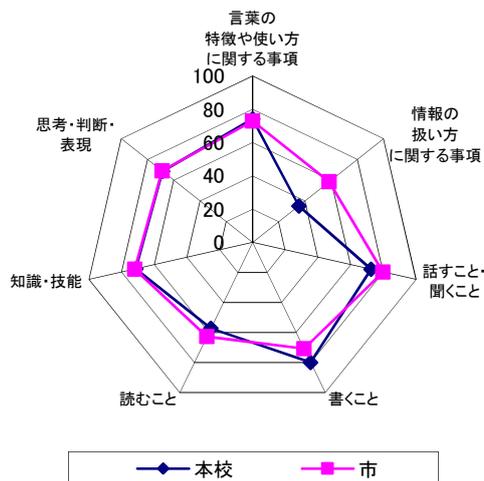


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 74.2 | 73.0 | 75.5 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 35.3 | 58.5 | 59.0 |
| | 話すこと・聞くこと | 72.5 | 79.8 | 75.9 |
| | 書くこと | 79.9 | 70.7 | 71.7 |
| | 読むこと | 57.1 | 62.8 | 62.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 71.4 | 72.0 | 74.4 |
| | 思考・判断・表現 | 68.6 | 69.0 | 68.5 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

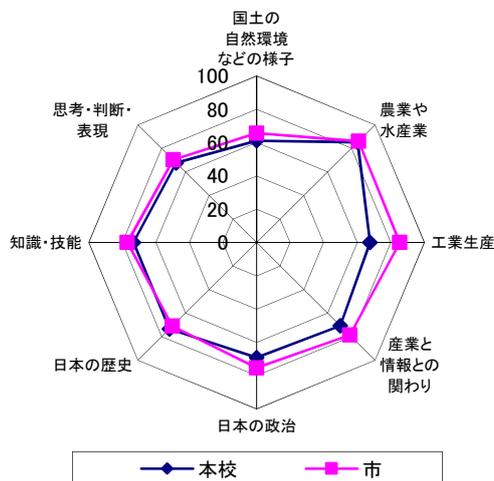
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 市の平均よりやや高い。 ○敬語である謙譲語と尊敬語の使い方をよく理解している。 ●漢字の読み書きについては、市の平均とほぼ同じである。しかし、同じ読みの漢字の使い分けについて理解して文の中で適切な漢字を選ぶ問題については、つまり児童が多く見られた。 | ・今後パソコンで文字を入力する際、どの漢字を選ぶか迷う場面があるかと思う。その時も、正しく選択できる力を付けることが大切であることを、知らせていきたい。 ・漢字の短文づくりを通して、文に合った漢字を使い分けられる力を日々養っていきたい。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 市の平均より低い。 ●設問が1つしかない記述式の問題である。3つの資料のうち、筆者が報告文を書くとき、資料のどこに注目して引用したかを読み取り、筆者の空白の記述を考えることが難しかったようだ。 | ・指定文字数でほぼ書いているが、条件の通りに書くことが難しかったと推察する。文章中の二文を取り上げることになっているので、資料を深く読み込む力を付けていきたい。 ・国語だけでなく総合の調べ学習などでも、多数の資料から読み取っているの、同じテーマで学習している児童同士で、複数の資料から読み取れることを共有して読み取らせたい。 |
| 話すこと・聞くこと | 市の平均より低い。 ●市の平均とほぼ同じであるが司会者の立場として、計画的に話し合い、考えをまとめる工夫を問う設問について低かった。 | ・少人数なので小集団の中で司会者を経験させながら、話し合いのテーマからそれないようにすることが大きな役割であることを理解させるようにしていきたい。 |
| 書くこと | 市の平均より高い。 ○自分の意見とその理由を明確にして書いている児童が全員であった。選んだ考えとその理由を2段落構成で書いたり、賛成しない意見への反論を書いたりすることも、おこなってきている。 | ・新聞や児童の考えを書く文章を書く機会を多く取り入れたので、理由を明確にして書くことが身に付いたと言える。児童同士読み合うことで、さらに表現の技能を高めていきたい。 |
| 読むこと | 市の平均より低い。 ●物語の読み取りでは、登場人物の様子についてはおおむね理解している。しかし、文章から読み取れる主人公と情景の位置関係など細やかな描写を理解できなかった児童が多く見られた。 ●説明文の読み取りでは、文章の論の進め方を的確にとらえられない児童が多く見られた。 | ・授業の中でも、位置関係や登場人物の関係など、意見を交流しながら、細やかな描写の理解を深めたい。 ・説明文の読み取りでは、段落構成を捉える学習を多く取り入れていく。 ・読解テストに慣れることも必要なため、宿題等にも取り入れて読み取り方を理解できるようにしていく。 |

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 61.2 | 65.7 | 67.0 |
| | 農業や水産業 | 85.3 | 86.1 | 77.5 |
| | 工業生産 | 67.6 | 85.4 | 76.7 |
| | 産業と情報との関わり | 70.6 | 78.6 | 69.6 |
| | 日本の政治 | 69.1 | 75.2 | 65.8 |
| | 日本の歴史 | 73.5 | 71.1 | 69.1 |
| 観点別 | 知識・技能 | 73.4 | 77.0 | 72.8 |
| | 思考・判断・表現 | 67.6 | 70.3 | 64.5 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

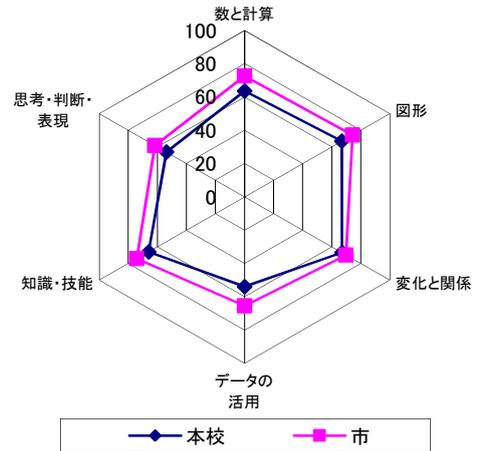
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|--|---|
| 国土の自然環境などの様子 | <p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>●日本の周囲の国の国旗や周辺の海洋名についての設問は、市の平均を下回った。</p> <p>●日本の気候の様子について、雨温図から回答する問題は、市の平均を下回った。</p> | <p>・日本周辺の海洋名や国など、基本的な事項が定着していない児童も見られるため、復習が必要である。</p> <p>・雨温図の読み取り方が理解できていない児童が多い。都市の気候の特徴と雨温図を照らし合わせながら、読み取り方を再確認する必要がある。</p> |
| 農業や水産業 | <p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○季節による米農家の作業を選択する設問は、正答率が100%であった。</p> <p>●水産業における国内生産量と輸入量の移り変わり折れ線グラフから読み取ったり、地図を見て農産物の盛んな地域を読み取ったりする資料活用の問題は、市の平均をやや下回った。</p> | <p>・米農家に関する問題はおおむねできている。また、農作業にかかる時間の変化をグラフから読み取ることもできていた。</p> <p>・地図から日本の農産物の特徴を読み取る問題では、概ねできているが、今後も見るポイントを理解させながら問題に取り組ませていきたい。</p> |
| 工業生産 | <p>平均正答率は、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●機械工業の製品を回答する問題は市の平均正答率より大きく下回った。</p> <p>●電気自動車の特徴を記述する問題は市の平均よりやや下回った。</p> | <p>・機械工業の製品を答える問題で化学工業と答える児童が多かった。言葉の意味を理解できないと考えられるため、何工業がどんな製品なのかを指導していく必要がある。</p> <p>・電気自動車の特徴を記述する問題では、無回答も多かったので、環境にやさしい自動車とはどのような自動車なのかを考えさせていきたい。</p> |
| 産業と情報との関わり | <p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○資料を見て、新聞やテレビで情報を伝える人々が共通して大切にしていることを答える問題は、市の平均正答率と同程度であった。</p> <p>●情報メディアの活用の注意点を答える問題の正答率は市の平均より下回った。</p> <p>○産業と生活環境に関わる問題では、市の平均をやや上回った。</p> | <p>・情報を伝える側と受け取る側にとっての大切なことをおおむね理解しているが、今後も情報活用の重要性についてさらに定着を図っていきたい。</p> <p>・林業において間伐の重要性、自然災害や防災に関することなど、自分たちの生活や環境に関する理解ができている。今後も様々な産業と自分とのかかわりを意識させ指導にあたりたい。</p> |
| 日本の政治 | <p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○日本国憲法に関する知識についての問題は、市の平均と同程度であった。</p> <p>●国会の働きや裁判の仕組みを答える問題の正答率は市の平均を下回った。</p> | <p>・国民の義務と権利についての理解がよくできている。しかし、日本国憲法についての理解が不十分な児童も若干見られるので、憲法の基礎的な理解を復習させたい。</p> <p>・裁判所の三審制の意味や国会の働きについて理解できていない児童もいる。基礎的な知識なのでしっかり復習させたい。</p> |
| 日本の歴史 | <p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○縄文時代から古墳時代の暮らしについて答える問題は市の平均よりやや上回った。</p> <p>●奈良時代の国づくりについての問題の正答率は市の平均よりやや下回った。</p> <p>○鎌倉時代から室町時代にかけての武士の世の中の政治や文化に関する問題は、市の平均よりやや上回った。</p> | <p>・全体的におおむね理解されているが、奈良時代や室町時代の文化についての理解度が低かった。歴史的事象だけでなく、それを背景とした文化も事象と合わせて、理解を進めていく必要がある。</p> |

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 63.6 | 72.6 | 71.6 |
| | 図形 | 66.9 | 74.4 | 72.0 |
| | 変化と関係 | 67.1 | 69.8 | 62.6 |
| | データの活用 | 53.9 | 65.5 | 59.1 |
| 観点別 | 知識・技能 | 66.0 | 74.1 | 68.9 |
| | 思考・判断・表現 | 53.8 | 61.6 | 63.7 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

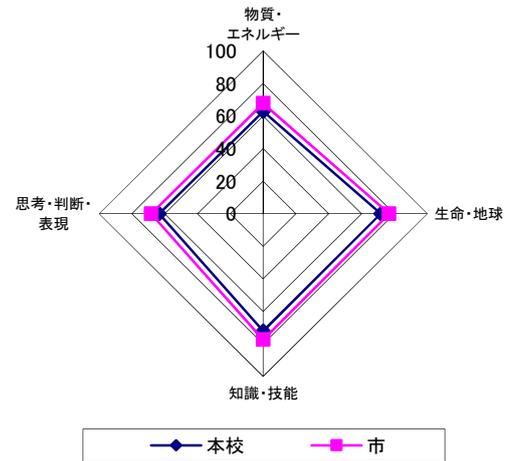
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○小数×小数の計算を問う問題では、市の平均を上回ることができた。</p> <p>●真分数+真分数や分数×分数の計算問題、文章にあった分数の式を選ぶ問題では、市の平均を下回っており、理解が不十分である。</p> | <p>・基本的な計算については引き続き宿題プリントを課すことで、定着を図ることができるよう指導を継続したい。</p> <p>・分数に関する問題を苦手している傾向があるので、言葉の意味やその言葉が式のどの部分にあたるのかななどを十分に理解させ、言葉で説明する活動を取り入れ確認をしたい。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は、市の平均よりかなり低い。</p> <p>○点対称な図形について、対応する辺を選ぶ問題では、市の平均を上回ることができた。</p> <p>●合同な三角形の作図の方法を問う問題や三角形の外角を求める問題では、市の平均を下回っており、理解が不十分である。</p> | <p>・いろいろな図形の性質について、再度確認をし、きちんと整理して理解させるようにしたい。</p> <p>・合同な三角形の条件を再度確認し、作図については、手順をもう一度確認させ、正確に作図が行えるよう問題を解かせ、定着を図りたい。</p> |
| 変化と関係 | <p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○道のりとかかった時間から時速を求める問題では、市の平均を上回ることができた。</p> <p>●50m走を走る記録から、速さを求める問題では、市の平均を下回っており、理解が不十分である。</p> | <p>・道のり、速さ、時間の関係を再度確認し、きちんと整理して理解させるようにしたい。</p> <p>・道のり、速さ、時間を求める問題について、生活に関わる内容の問題を考えさせることで、理解を深めさせていきたい。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●折れ線グラフを読み取る問題では、市の平均を下回っており、理解が不十分である。</p> <p>●もとにする量の大きさが違うとき、割合の大小と比べる量の大小は一致しないことを具体的に説明する問題では、市の平均を下回っており、理解が不十分である。</p> | <p>・折れ線グラフの性質や読み方、かき方について再度確認し、理解させるようにしたい。</p> <p>・割合に関する決まりを再度確認し、類似問題等で復習しながら大小の比べ方について理解を深めていきたい。</p> |
| | | |
| | | |

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 62.7 | 67.8 | 64.1 |
| | 生命・地球 | 71.6 | 76.7 | 78.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 72.1 | 77.4 | 78.3 |
| | 思考・判断・表現 | 63.4 | 68.3 | 66.2 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|--|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●特に、ふりこのきまりの問いが市の平均よりも低い。ふりこの性質について、説明する力が不十分である。</p> <p>●特に、物のとけ方の問いが市の平均よりも低い。質量保存の法則の理解が不十分である。</p> | <p>・ふりこの実験から分かることや規則性を見つけたり、それらについて説明したりするなど資料を活用して解く問題に抵抗を感じる傾向がある。なぜその答えになるのか思考の過程を表現するような機会を多く設けることが必要である。</p> <p>・「物のとけ方」は溶かす前と溶かした後の全体の重さが変わらないこと、溶けたものの取り出し方を正しく理解させる必要がある。そのため、実験を見直し、正しく捉える機会を設けていきたい。</p> |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「生物とかんきょう」の呼吸についてのすべての問いが市の平均より高い。</p> <p>●動物のからだのつくりとはたらきなど消化に関する問いができていない傾向がある。</p> | <p>・実験を伴う学習は知識として定着しやすいことが分かるので、今後も単元に応じた実験を適切に行っていききたい。</p> <p>・動物のからだのはたらきについての知識が不十分であるため、しっかりと授業で復習する必要がある。</p> |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立上河内西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-------------------|---|--|
| 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫 | 今年度、年度初めの懇談会で、各学年で家庭教育の重要性を各担任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし、実施している。 | 家庭学習時間が本校の目標時間である1時間以上を7割の児童が達成できている。一方で、自分で計画を立てて取り組んでいるかについては、半数以下であり、学びを自分のものとして捉えさせる必要がある。 |
| 毎時間、各授業での振り返りの実施 | 主体的に学習に取り組む態度を育てるために、発達段階に合わせた振り返りの視点をもとに、振り返りを書く活動を積み重ねた。 | 学習に対する気持ちや態度は、8割が肯定的な回答としており、毎時間の振り返りを通して、主体的に学習に取り組む態度が育ってきている。また、自分の考えを書く力もついてきた。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・課題となる内容について、全学年意図的、系統的に授業や家庭学習を取り入れ、定着を図る。
- ・自ら学びを調整し、粘り強く学習に取り組む児童の育成を目指した授業研究を計画する。
- ・児童の学習へ向かう気持ちも向上させるために、自主学習で何に取り組んだらよいか児童が自ら選択できるような具体的な手引きを発達段階に合わせ改めて見直し作成する。
- ・自分の考えを書く時間を確保し、さらに自分の考えを根拠を挙げながら話す場を授業の中で意図的に設定していく。